

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ②

5月にお茶の水女子大学附属高校の生徒たちが学年合宿で諏訪地方を訪れた。生徒たちから寄せられた投稿を紹介する。

やりがいある仕事

田代 優香

先日、合宿で長野県岡谷蚕糸博物館に行った。実際に手作業している機械で行っている所、歴史、昔の機械などを見学した。

以前は製糸場が二百万件あったのだが、今では五百件になってしまった。若い世代である私たちがその重要性を理解し大切に受け継いでいかねばならない。また、訪れた女性のように若い頃覚えたことは一生忘れない。それを継続していくことで生き生きと自立した人生を送れる。私も一生関わっていけるやりがいのある仕事を見つけたために今から行動をおこすべきかと思つた。

自然とは何か

神田 愛

私はこの前、学校行事で諏訪に訪れたときに八島温泉でハイキングをした。あたり一面、草や木、花、池などだったので自然がいっぱいだと感じた。そして耳を澄ますと鳥やカエルの鳴き声、風の音が聞こえてきてとても心地良かった。

そのような中、温泉のガイドさんこう言われた。「自然とは何だろう。人の手が加えられていない状態。自然と共存していきたい。」

ハイキングで学んだ共生

金子 紗也

先日、学校行事の学年合宿で長野県の諏訪地方に行き、八島温泉でハイキングをした。その際に現地のネイチャーガイドの方から多くのお話を聞いた。その中で私は「人間は動物が好きかもしれないが、動物は絶対に人間が嫌いだ」という言葉が印象に残った。そして、自然と人間の共生について考えた。ハイキングでは実際にシカの足跡を見たりカエルや鳥の声を聞いたりした。その度に

私が周囲を見渡したがそこに動物の姿は一度もなかった。しかし動物たちばかりと私たちが見えないところから私たちが見ているに違いない。ガイドの方もそうおっしゃっていた。今までは「共生」というと何となく「助け合いながら仲良く一緒に暮らす」ということをイメージしていたが、それは人間と自然の世界で「自然が非現実的」と分かった。今、人間を「動物」として再認識し、然る中で人間のありべき姿を考えることが求められているのではないだろうか。

諏訪の魅力

武井 春輝

先日、学年合宿で長野県諏訪市を訪れた。長野県へは何度も訪れたことあるが、やはり自然にあふれた都会にはないおいしい空気とさわやかな風があった。

一目目で印象に残っているのは山田養蜂所だ。そこではミツバチがどのようにして蜂蜜を作るのか、そしてどのようにして蜂蜜を搾取しているのかについて学び、蜂蜜を試食させていただいた。私は蜂蜜に興味がない。今までもたくさんさんの経験をさせていただいた。そして皆さんの諏訪の魅力を知ることができた。

「よき者による町おこし」

井上 優香

先日、学校の行事で長野の諏訪に合宿に行った。都会に住んでいるので自然を味わうことはとても貴重な体験である。空気が澄んでいてとても気持ちよく開放的な気分になった。

そんな中で最も印象に残っているのは御田町商店街のことだ。私たちの周りには商店街がたくさんあるが、この御田町商店街は一味違う。現在シャッター通りと呼ばれる商店街がいくつかあるが、この商店街は

新しい御柱の祭が楽しみ

藤井 紀乃

先日、学校の宿泊行事で諏訪を訪れた。二泊三日のうち二日諏訪大社四社を全て参拝した。一つ一つの社の周りに立つ四本の御柱。それは今までに見たことのない、とても不思議な物体だった。諏訪大社だけではなく、諏訪にある神社にはどこでも、それだけの大きさに見合った四本の御柱が立っているのだ。

もちろん、学校の授業の事前学習では、諏訪大社、御柱について調べていた。しかし、百聞は一見に如かずと言ふように、実際に見てみると、自分の想像を越えた大きさであり、何も話すことができなくなってしまう。これが御柱なのかと感動した。

考えてみれば神社のまわりの御柱、諏訪湖の御神渡り、鹿肉の食事は全て諏訪大社に関連している。地域にこれほど密接に関わっている神社というのは、とても素晴らしいのだと思う。

来年は、六年に一度の御祭だ。今回の経験と思い出とともに、新しい御柱の祭を楽しみに待ちたい。